

製品名: インテグリン α L ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12673**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 -20°C で保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	130kDa

抗原情報

遺伝子名	ITGAL
別名	ITGAL; CD11A; Integrin alpha-L; CD11 antigen-like family member A; Leukocyte adhesion glycoprotein LFA-1 alpha chain; LFA-1A; Leukocyte function-associated molecule 1 alpha chain; CD11a
遺伝子 ID	3683.0
SwissProt ID	P20701
免疫原	抗血清はヒト ITGAL の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 171-220

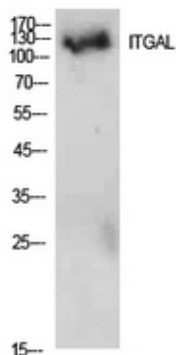
背景

インテグリンサブユニット α L (ITGAL) Homo sapiens ITGAL は、インテグリン α L 鎖をコードしています。インテグリンは、 α 鎖と β 鎖からなるヘテロ二量体の膜貫通タンパク質です。この α インテグリン I ドメインは β 2 鎖 (ITGB2) と結合して、すべての白血球に発現するインテグリンリンパ球機能関連抗原-1 (LFA-1) を形成します。LFA-1 は、そのリガンドである ICAM1-3 (細胞間接着分子 1-3) との相互作用を介して白血球細胞間接着において中心的な役割を果たし、リンパ球共刺激シグナル伝達においても機能します。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、ドメイン: インテグリン I ドメイン (挿入) は VWFA ドメインです。I ドメインを持つインテグリンはプロテアーゼによる切断を受けない。機能: インテグリン α -L/ β -2 は、ICAM1、ICAM2、ICAM3、および ICAM4 の受容体である。白血球と内皮細胞の相互作用、細胞傷害性 T 細胞による細胞傷害、顆粒球および単球による抗体依存性細胞傷害など、様々な免疫現象に関与する。類似性: インテグリン α 鎖ファミリーに属する。類似性: 1 つの VWFA ドメインを含む。類似性: 7 つの FG-GAP リピートを含む。サブユニット: α サブユニットと β サブユニットのヘテロ二量体。 α -L は β -2 と会合する。組織特異性: 白血球。

研究分野

細胞接着分子 (CAM)、ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害、白血球の内皮透過性遊走、アクチンと細胞骨格の調節、ウイルス性心筋炎

画像データ



インテグリン α L ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。